

復活へ

清流 大和川の挑戦

11

「日本一汚い川」からの脱却

水質改善に向け、大和川流域の市町村が独自の取り組みをしており、そ

平成6年度からスタートした廃食用油の回収、リサイクル事業は平成20

ヨシノボリ、汚い水にすむアメリカザリガニなどの生物を展示して、子どもたちの関心を集めた。市独自の取り組みとしては、市内の小学校への出前授業「水の大切さ」を10年ほど前から続けており、環境学習として定着した。小学4年生を対

廃油回収や親子講座

の中でも橿原市は多彩な活動を実施している。

年度は5市町村合計で約1万3500リットル。橿原市だけで8750リットルの実績を挙げた。これは実に当初の62倍もの数字で、市民らの環境意識の向上を物語っている。

象にした生活排水対策の講座で、水質の簡易実験を行う。子どもから保護者へ水の大切さを伝えてもらおうが狙いだ。

は生活排水によるもの。

を7月に開催。生活排水対策の講座とNPO・A SKA自然塾との協働による飛鳥川上流のフィールドワークを行っている。

そのほか、環境啓発パ

橿原市をはじめ大和川の支川・飛鳥川の流域5市町村が「飛鳥川流域生活排水対策推進会議」として

同市は、廃食用油を燃料化したバイオディーゼルのごみ回収車2台を8

また、9月の「かしはら商工まつり」では推進会議のブースを出展。きれいな水にすむドンコや市地球温暖化対策室の

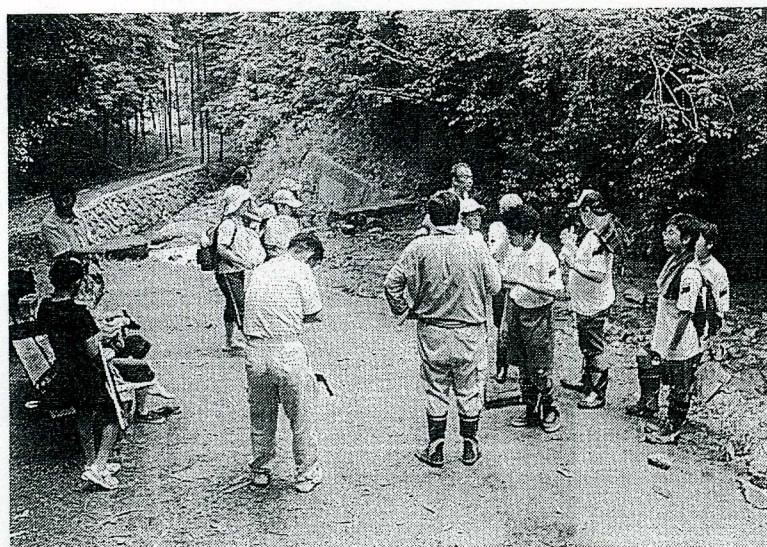
実施している。

また、9月の「かしはら商工まつり」では推進会議のブースを出展。きれいな水にすむドンコや市地球温暖化対策室の

また、9月の「かしはら商工まつり」では推進会議のブースを出展。きれいな水にすむドンコや市地球温暖化対策室の

市町村の取り組み—橿原市の場合

加藤智治室長補佐は「地元自治会などとの連携も活排水対策により、子や心がけたい」と話している。孫に良い環境が残せることを訴えていきたい。近 毎月1回、下旬に掲隣の市町村やNPO、地 載



飛鳥川のフィールドワークでは、親子らが水環境の大切さを体験した

21年11月30日(月)

奈良新聞

朝・夕